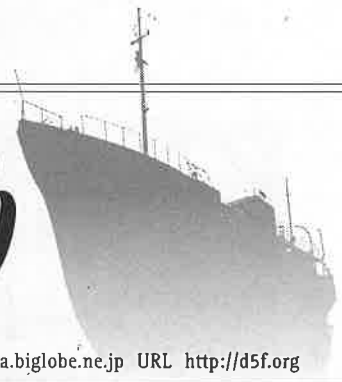


2008.06.01
No.345

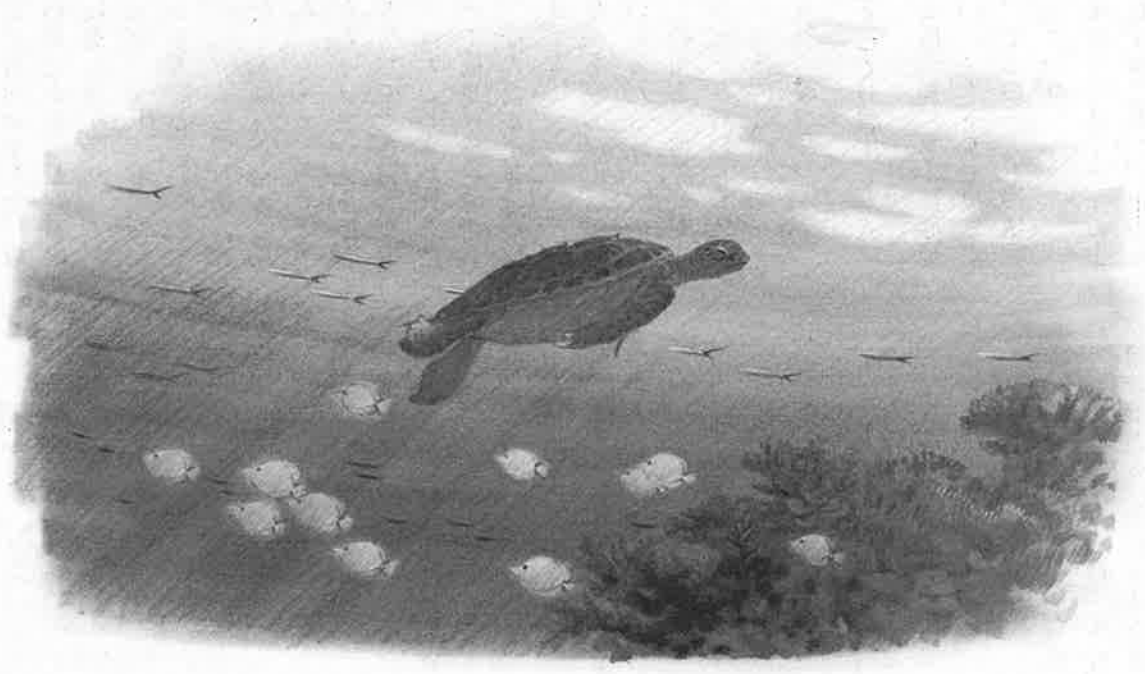
福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail: fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



特別展「ウミガメと少年 第五福竜丸と海へ」開催 6月24日～8月17日



「ウミガメと少年」の画文集は徳間書店刊。

男鹿和雄さんが描く「ウミガメと少年」、ヒロシマ・ナガサキの作品（ピエゾグラフ・精密複製）の展覧会が6月24日より8月17日まで第五福竜丸展示館にて開かれます。男鹿和雄さんにご寄稿いただきました。

船体に添いヒロシマ・ナガサキ・オキナワの展示によせて

男鹿和雄

一九九七年、吉永小百合さんがライフワークにしている原爆詩の朗読CDを製作するために、私は表紙と挿絵の依頼を受けました。広島に落とされた原爆によって一四万人の人が亡くなり、かろうじて生き残った人々も心と体に深い傷を抱えて、苦しみ続けました。

そういった人たちが家族、友人を失った人たちが、その苦しみの思いを込めて書いた詩を、吉永さんは飾らない誠実な姿勢で朗読しています。

このような重いテーマを扱った作品の絵は、原爆や戦争の体験のない自分には描けないと初めは思いました。

しかし、吉永さんはタイトルを「第二楽章」と名付け、静かな語り口ではあっても、

犠牲となった人たちの悲しみと核兵器の愚かさを訴え、次の世代に長く根気強く語り継いでいきたい、とくに若い人たちに聞いてほしいといわれました。

そのために直接的な表現よりも、その後に続く平和への思いに繋がるような、静かな絵を望まれました。それならできるかと考え、また以前に広島の前爆を扱ったアニメーション映画『はだしのゲン』に参加したこともありましたので、お引受けしました。

取材に広島へ行き、原爆ドームや平和記念資料館、それに郊外へ足を延ばして、被爆前の平和だった頃の風景の面影を探して歩き、一〇点ほどの絵を描くことができました。

（2めんにつづく）

長崎での想い

その二年後の四月、今度は「第二楽章・長崎から」のC Dに挿絵を描くために長崎を訪れました。

取材を終えての帰りに長崎の街を空から見おろしてハッとしました。

離陸後間もなく、飛行機の窓から覗いたその下には、長崎の市街地が広がっていました。浦上川に沿って延びる道路や密集した建物がまるで地図のように見えます。

さつきまで取材で歩きまわった平和公園や原爆爆心地。浦上天主堂から山王神社への道。如己堂へ続く道。人の姿は見えません。

けれどもそこには、たくさんの方が住んでいます。様々



仕事場にて男鹿さん

な仕事をする人たち。学校へ通う子どもたち。挨拶をし、道を教えてもらいました。坂道の多い街だから、長い石段や急な坂道を登り降りして大変だけれど、それでも懸命に生きている人びとがいるのです。なのに、この飛行機の高さからだとは小さ過ぎて見えません。

そのかわり、さつきまであれほど苦労して歩き回った道のりは、ほんのわずか目を動かすだけで簡単に移動できるのです。なんだか不思議な感じがしました。

見渡せるあのへんには何万人くらいいるだろうか。あの道からこの角まで何キロだろうか。ひとまとめにして数字で考える自分に気づいてハッとした気持になったのです。

原爆をつくり投下した人

平和公園の横にある爆心地上空五〇〇メートルで原爆が炸裂し、七万四千人もの犠牲者がでたという。

爆発を五〇〇メートルの上空に設定することで、市街地へ及ぼす被害の規模が最も有効であると算出して投下した。



ゲンバイヒルガオ

のであろう。そのような冷たい計算をし、原爆を作った者も、使った者も、標的となる人びとの顔や姿は想像できなかったに違いありません。

片隅で必死に生きようとしている人たちのことを忘れてしまい、本来あるべき人間一人の力と考え方とはあまりにもかけ離れてしまっているのに、自分自身の力を勘違いしてしまったのだろう。

便利で早すぎる動きと高度な機械に頼り、高すぎる位置に来てしまった結果ではないでしょうか。

その結果として戦争の犠牲になってしまふのは、多くが弱者である、武器を持たない一般の市民や女性なのでした。

戦争童話集と沖縄

そんな人たちの無念の思いを野坂昭如さんの「戦争童話集」は、代弁してくれていると思います。語られている一二篇の話は、だれにも知られずに戦争の犠牲となった末端の兵士や子どもや動物です。しかし、それぞれの主人公たちが、その最後まで側にいる相手をいとおしみ、献身的に守ろうとした姿に胸を打たれました。

そして一二篇目の「ウミガメと少年」も同様に、幼い少年がたった一人で誰にも知られずに悲しい結末に至るお話です。それでも、せめて沖繩の空と海が見てくれてた…そのような思いで描きました。早川敦子さんの英訳文とともに、新たな画文集の形で出版するにあたり快く送り出してくださった野坂昭如さん、黒田征太郎さんには感謝の気持で一杯です(注)。

そして、この絵を「ウミガメと少年 第五福竜丸と海」と題して第五福竜丸展示館で見てもらえることになりました。

第二楽章の三作目として、広島、長崎の絵とともに船体に寄り添うように展示されることには感慨深いものがあります。激甚な事件の大波にもまれて船体には様々な傷痕がありますが、その姿は大きく堂々としています。手で触ると木の温もりが伝わります。

しかし第五福竜丸は、波間を漂ってたどり着いたこの場所、まだ役割は続くのです。展示館の図録「写真でたどる第五福竜丸」の裏表紙には「第五福竜丸航海中」と書かれています。核兵器のない明日が来るまで、第五福竜丸は航海を続けることでしょう。

「ウミガメと少年」も大海原を泳ぎ続けます。ウミガメはまた、沖繩の砂浜へ上がって卵を産んで…ゆったりと、ゆったりと、繰り返し…

(おが かずお)

(注) 戦争童話集沖縄篇「ウミガメと少年」は、イラストレーター黒田征太郎さんの委嘱により野坂昭如さんが創作した。

核の被害に学び バトンをつないで ある中学校のとirikumi

神奈川県（横浜市）の一年生の女子生徒は、フィールドワークで第五福竜丸展示館を見学、その折の感想文を紹介します。

同学園は、元乗組員の大石又七さんを学校に招いての平和学習を続けています。

大石さんの証言活動を紹介した新聞記事を見た長濱あずささん（当時中学二年）が、大石さんの話を学校で聞きたいと担任に相談し、実現させました。その長濱さんは、いま母校で教壇に立ち、大石さ



修学旅行生に語る大石又七さん

んを学校に招く側になっていきます。大石さんの発信したバトンが引き継がれているのです。

生徒たちは、大石さんの最初の手記『死の灰を背負って』を朝の読書で読み、ニュース映像などでも学んだ後に、大石さんの話を聞きました。添えられた長濱先生の手紙には、学びを深めた生徒たちの姿に「私自身も学びながら、さらに勉強していかなければ……」と綴られています。

まず自分を変えること

◇私は第五福竜丸と出会って人の命の大切さや人々の愚かな行いを強く実感しました。そして他人事のように何万とか何億人死んだなどと簡単に言ってしまうけれど、その一人ひとりに命があり、とても重いものだと思います。

◇第五福竜丸を見て一番最初に思ったのは「大変だったろうな」という気持ちでした、

この船自体何も悪いことをしていないのに、周囲の人々から一方的に差別され続け、ついにゴミとして捨てられる運命をたどった哀れな船です。その船に乗った乗組員もつらい運命をたどりました。この事件のことを心にきざみ、ただこういうことがあったという記憶ですませないようになりたいと思います。

◇どうして人間は自然や人をはかいるのだろうか？ 私一人では世界から核兵器をなくすことはできないのだろうか？ 大石さんの講演のときにも同じ疑問を持った。その答えをこの一日研修でみつけることができた。それはまず自分を変えることだと思った。そして自分が変わったら世界も変わる。自分を変えたいということは簡単にできないけど、少しずつ新しい自分をつくっていききたい。核兵器がなくなると平和な日がいづるかわからないけど、そんな世界をつくりだしていきたい。

◇私は第五福竜丸をこの目で見て「残っていてよかった」と思いました。核がある上で

の平和なんて、本当の平和ではありません。核がなくなり戦争が終わって初めて本当の平和が訪れるのです。これから少しずつ、今日思ったことを理解し、ずっとこのこしていかなければと思います。

世界の平和につながる

◇第五福竜丸が被ばくする前、アメリカとソ連が水爆実験で対立していたと聞いたとき「それ何に使うの？」と正直そう思いました。広島や長崎に落ちた原爆より何百倍も破壊力があるものを作ったのだのか、私にはわかりません。そしてその何百倍もの破壊力をもつものを人の手で作ったと知り、まさに殺人ではないかと思いました。

◇私はここで何か深く温かいものを感じた。特に久保山さんへの手紙が心に残った。私たちよりも小さい子が一生懸命手紙を書いていたということが字でわかりました。その奥にはやはり戦争はもうやめてほしいという願いがこめられているのだと思う。

今こうして見えている世界よりも見えない世界の方が大

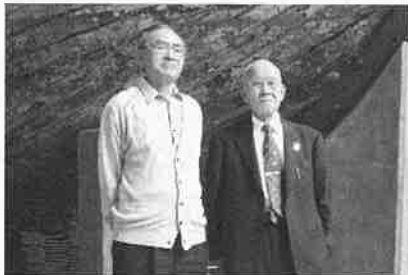
きいのだと思う、内戦で苦しんでいる子や食べ物がない子、みんなそれぞれ重さの同じ尊い命を持っている、でも人を簡単に殺そうとしている国もあるのということを忘れてはいけない。生きているのが当たり前ではない。そのことを第五福竜丸は語っているように感じる。

◇第五福竜丸がいま残されていることで「平和が大切だ」と思える人が増えると思う。しかしそれをただ単に思い続けるだけでは意味がない。自分がそう思ったならそれを伝えていくべきだ。伝えていくことで世界の平和につながっていくと思う。

◇半世紀以上経った今でも、そしてこれからも苦しめられる被爆者たち。それでも今も核兵器を保有しているアメリカなどの国々。人間の生み出してきた文明は、今は人間を滅ぼすものとなっている事実。それを打ち破っていかなければいけないのはほかならぬ私たちであるということ。深く考えさせられた見学でした。

I N F O R M A T I O N

**ブラジル被爆者の会
会長来館**



ブラジル原爆被爆者協会の森田隆会長が5月23日午前に来館し、折から中学生に体験を語る大石又七さん(福竜丸元乗組員)と懇談しました。

森田さんは、広島・宇品港で被爆、1956年にブラジルへ移住し、以来半世紀余をサンパウロに在住、被爆者の会を組織し、日本政府に対して補償を求めてきました。

政府に要請をした当初は、日本から出て行ったのだから国内の被爆者と同様には援助できないと冷たい言葉を浴びせられたそうです。それでも粘り強く来日を繰り返し、裁判に訴えて在外被爆者への施策を少しずつ獲得してきました。

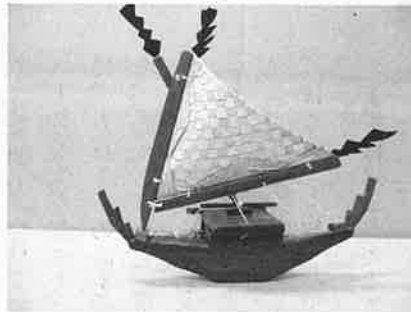
大石さんには、被爆していながら国が被爆者として認めないのはおかしい、元気でたかいましようかと述べ、今年はブラジル移民100周年で平和への願いを込めて広島市・長崎市の協力で原爆写真展を開く、大石さん作製の第五福竜丸模型をぜひ展示したいと語っていました。

マーシャル大使館からの贈り物

4月30日、駐日マーシャル大使館A・アルフレッド公使が来館し、過日の大統領来館のお礼として、タコノキ製の海図、カヌー模型、魚のポスターを寄贈されました。

来館者ノートに「第五福竜丸から平和な未来をみつめよう」とのメッセージ

を残しました。



展示館そばで「幽霊船」の演劇公演

劇団サーカス劇場によるテント芝居公演が5月16日から26日までおこなわれました。作品は、第五福竜丸が夢の島に捨てられた1968年を舞台に、福竜丸に手紙を書き続けた女性と書けなくなった若い小説家を中心に、戦後の歴史、人びとのありようなどを夢の島のゴミのなかで問いかけようとするドラマ(作・演出清末浩平)。

展示館では、演劇鑑賞者の見学の便宜をはかるため、公演期間中の開館時間を延長しました。

9条世界会議ゲスト来館

5月4日～5日幕張メッセ(千葉市)で開催された9条世界会議に参加の海外ゲストが5月3日来館し、協会の川崎会長の説明をうけて見学しました。

一行はガス・ミクラットさん(フィリピン)、リファート・フセインさん(バキスタン)、エレン・トーマスさん(アメリカ)、ラリサ・ザブロフスカヤさん(ロシア)、區伯權(おうぱくくん)さん(香港)、ミヤグマル・ドブチンさん(モンゴル)の6名、それぞれが国際的なNGOや平和教育機関で活躍されている方たちです。見学後ボランティアスタッフを交え、懇談しました。

平和行進出発

5月6日、原水爆禁止国民平和

行進が展示館前ひろばから出発しました。協会から川崎会長が挨拶しました。出発式に先立ち、展示館ビジュアルルームで、一回目の平和行進を記録した『鳩ははばたく』(亀井文夫監督)の鑑賞会も行われました。

協会理事会・評議員会開く

5月26日、第五福竜丸平和協会は、今年度最初の理事会と評議員会を学士会館で開き、2007年度の事業報告および収支決算について審議のうえ承認しました。

また、08年度の事業「男鹿和雄展 ウミガメと少年 第五福竜丸と海」の展示内容についての報告、子どもを対象にしたイベントの開催などについて意見交換しました。

なお、新たに評議員に浅見清秀さん、理事に奥山修平さんを選出しました。

07年度の会計報告の概要は以下のとおりです。

2007年度会計報告
財団法人第五福竜丸平和協会

収入の部	
科 目	金 額
事業収入	19,363,699
(展示館受託収入	17,483,970)
(広報資料普及収入	1,879,729)
会費収入	1,643,500
寄付金収入	1,623,124
(寄付金	1,423,124)
(開館30周年募金	200,000)
その他	48,301
前期繰越金	7,070,095
合 計	29,748,719
支出の部	
科 目	金 額
事業費	18,568,607
(展示事業	12,921,972)
(資料収集事業	2,299,315)
(広報普及事業	3,099,431)
(その他の事業	247,889)
管理費	2,585,802
特定預金支出	500,000
次期繰越金	8,094,310
合 計	29,748,719